

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-265694

(43)Date of publication of application : 11.10.1996

(51)Int.Cl.

H04N 5/92

H04N 5/91

H04N 7/24

(21)Application number : 07-352516

(71)Applicant : SONY CORP

(22)Date of filing : 30.12.1995

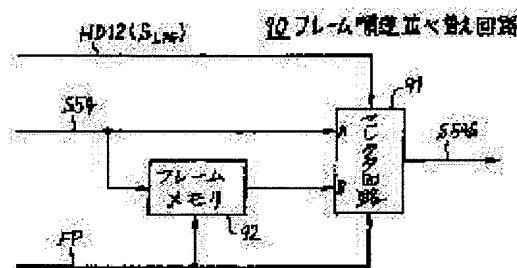
(72)Inventor : YONEMITSU JUN

## (54) ENCODED DATA DECODING METHOD AND DEVICE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To rightly restore the encoded image data after an edition is performed by preventing the image for which a second inter-encoding is performed from being outputted by using the image belonging to an original preceding group as a predicted image when an edition flag is set.

CONSTITUTION: By using the image belonging to an original preceding group as a predicted image, an edition flag SLPG is set to the group including the encoded data corresponding to the image for which a second inter-encoding which is possible to use the images existing before and after in the time in a display order as predicted images is performed. A frame order reverse rearranging circuit 90 executes the processing rearranging from the frame order according to a decoding processing to the frame order based on an input image signal and executes an edition reproduction processing by referring to the edition flag SLPG. Namely, when the edition flag SLPG is set, the image belonging to the original preceding frame group is used as the the predicted image, an interpolation frame is not outputted, the intraframe encoded just before is outputted and an encoding is performed.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-265694

(43) 公開日 平成8年(1996)10月11日

(51) Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所	
H 0 4 N	5/92		H 0 4 N	5/92	H
	5/91			5/91	N
	7/24			7/13	Z

審査請求 有 請求項の数 4 F D (全 21 頁)

(21) 出願番号 特願平7-352516  
(62) 分割の表示 特願平2-119604の分割  
(22) 出願日 平成2年(1990)5月9日

(71) 出願人 000002185  
ソニー株式会社  
東京都品川区北品川6丁目7番35号  
(72) 発明者 米満 潤  
東京都品川区北品川6丁目7番35号ソニー  
株式会社内  
(74) 代理人 弁理士 田辺 恵基

(54) 【発明の名称】 符号化データ復号化方法及び符号化データ復号化装置

(57) 【要約】

【課題】 画像信号を複数のフレームを含む複数のグループに分割して符号化した場合、このグループを分断するような編集を行うと、編集後の画像を再生した際の画質が劣化する問題があつた。

【解決手段】 編集フラグの有無を検出し、編集フラグが設定されていた場合には先行するグループに属する画像を予測画像に用いて、表示順上で時間的に前後にある画像を予測画像として用いることが可能なインター符号化によつて生成された画像を出力しないようにしたことにより、編集後の符号化画像データを正しく復元し得る符号化データ復号化方法及び装置を実現できる。

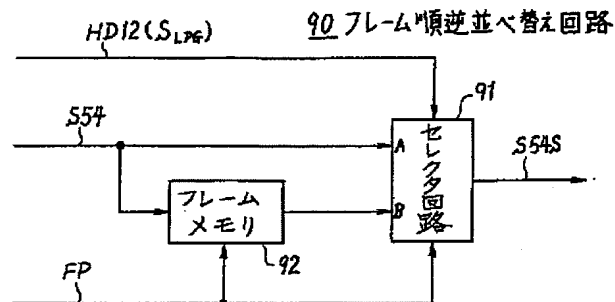


図12 フレーム順逆並べ替え回路

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】イントラ符号化によつて生成された第 1 の符号化データと、表示順上で時間的に前にある画像のみを予測画像として用いることが可能な第 1 のインター符号化によつて生成された第 2 の符号化データと、表示順上で時間的に前後にある画像を予測画像として用いることが可能な第 2 のインター符号化によつて生成された第 3 の符号化データとを含む符号化画像データが、それぞれいくつかの画像に対応する符号化データを含む複数のグループにグループ化され、上記符号化画像データは、元の先行するグループとは異なるグループに先行されるあるグループを少なくとも 1 つ含むように編集されてなり、上記あるグループは、上記元の先行するグループに属する画像を上記予測画像に用いて上記第 2 のインター符号化がなされた画像に対応する符号化データを含み、上記あるグループには編集フラグが設定されているような符号化画像データを復号化する符号化データ復号化方法において、

上記編集フラグの設定の有無を検出し、  
上記編集フラグが設定されていた場合、上記元の先行するグループに属する画像を上記予測画像に用いて第 2 のインター符号化された画像を出力しないようにすることを特徴とする符号化データ復号化方法。

【請求項 2】上記元の先行するグループに属する画像を上記予測画像に用いて第 2 のインター符号化された画像のかわりに、直前に復号化されたイントラ符号化された画像を出力することを特徴とする請求項 1 に記載の符号化データ復号化方法。

【請求項 3】イントラ符号化によつて生成された第 1 の符号化データと、表示順上で時間的に前にある画像のみを予測画像として用いることが可能な第 1 のインター符号化によつて生成された第 2 の符号化データと、表示順上で時間的に前後にある画像を予測画像として用いることが可能な第 2 のインター符号化によつて生成された第 3 の符号化データとを含む符号化画像データが、それぞれいくつかの画像に対応する符号化データを含む複数のグループにグループ化され、上記符号化画像データは、元の先行するグループとは異なるグループに先行されるあるグループを少なくとも 1 つ含むように編集されてなり、上記あるグループは、上記元の先行するグループに属する画像を上記予測画像に用いて上記第 2 のインター符号化がなされた画像に対応する符号化データを含み、上記あるグループには編集フラグが設定されているような符号化画像データを復号化する符号化データ復号化装置において、

上記編集フラグの設定の有無を検出する手段と、  
上記編集フラグが設定されていた場合、上記元の先行するグループに属する画像を上記予測画像に用いて第 2 のインター符号化された画像を出力しないようにする復号化手段とを具えることを特徴とする符号化データ復号化

装置。

【請求項 4】上記復号化手段は、上記元の先行するグループに属する画像を上記予測画像に用いて第 2 のインター符号化された画像のかわりに、直前に復号化されたイントラ符号化された画像を出力することを特徴とする請求項 3 に記載の符号化データ復号化装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【目次】以下の順序で本発明を説明する。

10 発明の属する技術分野

従来の技術（図 16～図 18）

発明が解決しようとする課題（図 19）

課題を解決するための手段

発明の実施の形態

（1）動画符号化／復号化装置の全体構成（図 1～図 5）

（2）実施例による動画符号化データの記録順序（図 6～図 9）

（3）実施例による動画符号化データのエディット処理（図 6～図 11）

（4）実施例によるエディットされた符号化データの復号化方法（図 8 及び図 12）

（5）他の実施例（図 13～図 15）

発明の効果

【0002】

【発明の属する技術分野】本発明は符号化データ復号化方法及び装置に関し、例えばエディット可能に符号化した符号化データを復号する際に適用して好適なものである。

【0003】

【従来の技術】従来動画映像でなる映像信号をフレーム内符号化データ及びフレーム間符号化データに高能率符号化して、例えば光磁気ディスク構成のコンパクトディスク（CD-MO ディスク）に高密度記録し、当該記録された動画符号化データを必要に応じて検索して再生し得るようになされた記録再生装置が提案されている（特開昭 63-1183 号公報、特願平 1-267049 号）。

【0004】すなわち、例えば図 16（A）に示すように、時点  $t = t_1, t_2, t_3, \dots$  において動画を構成する各画像 PC1、PC2、PC3……をデジタル符号化して、例えば CD-MO 記録再生装置でなる伝送系に伝送する場合、映像信号には時間の経過に従つて自己相関が大きい特徴がある点を利用して伝送すべき画像データを圧縮処理することにより伝送効率を高めるような処理をするもので、フレーム内符号化処理は画像 PC1、PC2、PC3……を例えば画素データを所定の基準値と比較して差分を求めるような圧縮処理を実行し、かくして各画像 PC1、PC2、PC3……について同一フレーム内における画素データ間の自己相関を利用して圧縮されたデータ量の画像データを伝送する。

【0005】またフレーム間符号化処理は、図16 (B) に示すように、順次隣合う画像PC1及びPC2、PC2及びPC3……間の画素データの差分でなる画像データPC12、PC23……を求め、これを時点 $t = t_1$ における初期画像PC1についてフレーム内符号化処理された画像データと共に伝送する。かくして画像PC1、PC2、PC3……をそのすべての画像データを伝送する場合と比較して格段的にデータ量が少ないデジタルデータに高能率符号化してCD-MO記録再生装置に伝送することができる。

【0006】かかる映像信号の符号化処理は、図17に示す構成の動画符号化データ発生装置1において実行される。動画符号化データ発生装置1は入力映像信号VDを前処理回路2において処理することにより片フィールド落とし処理及び片フィールドライン間引き処理等の処理をした後、輝度信号及びクロマ信号を16画素（水平方向に）×16画素（垂直方向に）分のデータでなる伝送単位ブロック（これをマクロブロックと呼ぶ）データS11に変換して画像データ符号化回路3に供給する。

【0007】画像データ符号化回路3は予測符号化回路4において形成される予測現フレームデータS12を受けてマクロブロックデータS11との差分を求めることによつてフレーム間符号化データを発生し（これをフレーム間符号化モードと呼ぶ）、又はマクロブロックデータS11と基準値データとの差分を求めることによりフレーム内符号化データを形成してこれを差分データS13として変換符号化回路5に供給する。

【0008】変換符号化回路5はディスクリットコサイン変換回路で構成され、差分データS13を直交変換することによつて高能率符号化してなる変換符号化データS14を量子化回路6に与えることにより量子化画像データS15を送出させる。かくして量子化回路6から得られる量子化画像データS15は可変長符号化回路を含んでなる再変換符号化回路7において再度高能率符号化処理された後、伝送画像データS16として伝送バッファメモリ8に供給される。

【0009】これに加えて量子化画像データS15は予測符号化回路4において逆量子化、逆変換符号化処理されることにより差分データに復号化された後予測前フレームデータを差分データによつて修正演算することにより新たな予測前フレームデータを保存すると共に、マクロブロックデータS11に基づいて形成される動き検出データによつて予測符号化回路4に保存されている予測前フレームデータを動き補償することにより予測現フレームデータを形成して画像データ符号化回路3に供給できるようになされ、これにより現在伝送しようとするフレーム（すなわち現フレーム）のマクロブロックデータS11と予測現フレームデータS12との差分を差分データS13として得るようになされている。

【0010】図17の構成において、図16について上

述した動画画像を伝送する場合、先ず図16 (A) の時点 $t_1$ において画像PC1の画像データがマクロブロックデータS11として与えられたとき、画像データ符号化回路3はフレーム内符号化モードになつてこれをフレーム内符号化処理された差分データS13として変換符号化回路5に供給し、これにより量子化回路6、再変換符号化回路7を介して伝送バッファメモリ8に伝送画像データS16を供給する。

【0011】これと共に、量子化回路6の出力端に得られる量子化画像データS15が予測符号化回路4において予測符号化処理されることにより、伝送バッファメモリ8に送出された伝送画像データS16を表す予測前フレームデータが前フレームメモリに保持され、続いて時点 $t_2$ において画像PC2を表すマクロブロックデータS11が画像データ符号化回路3に供給されたとき、予測現フレームデータS12に動き補償されて画像データ符号化回路3に供給される。

【0012】かくして時点 $t = t_2$ において画像データ符号化回路3はフレーム間符号化処理された差分データS13を変換符号化回路5に供給し、これにより当該フレーム間の画像の変化を表す差分データが伝送画像データS16として伝送バッファメモリ8に供給されると共に、その量子化画像データS15が予測符号化回路4に供給されることにより予測符号化回路4において予測前フレームデータが形成されると共に保存される。

【0013】以下同様の動作が繰り返されることにより、画像データ符号化回路3がフレーム間符号化処理を実行している間、前フレームと現フレームとの間の画像の変化を表す差分データだけが伝送バッファメモリ8に順次送出されることになる。伝送バッファメモリ8はこのようなして送出されて来る伝送画像データS16を一旦記憶し、伝送路9の伝送容量によつて決まる所定のデータ伝送速度で記憶された伝送画像データS16を順次伝送データD<sub>TRANS</sub>として引き出して伝送路9に伝送する。

【0014】これと同時に伝送バッファメモリ8は残留しているデータ量を検出して当該残留データ量に応じて変化する残量データS17を量子化回路6にフィードバックして残量データS17に応じて量子化ステップサイズを制御することにより、伝送画像データS16として発生されるデータ量を調整することにより伝送バッファメモリ8内に適正な残量（オーバーフロー又はアンダーフローを生じさせないようなデータ量）のデータを維持できるようになされている。

【0015】因に伝送バッファメモリ8のデータ残量が許容上限にまで増量して来たとき、残量データS17によつて量子化回路6の量子化ステップSTPS（図18）のステップサイズを大きくすることにより、量子化回路6において粗い量子化を実行させることにより伝送画像データS16のデータ量を低下させる。

【0016】これとは逆に伝送バッファメモリ8のデータ残量が許容下限値まで減量して来たとき、残量データS17は量子化回路6の量子化ステップSTPSのステップサイズを小さい値になるように制御し、これにより量子化回路6において細かい量子化を実行させるようにすることにより伝送画像データS16のデータ発生量を増大させる。

【0017】

【発明が解決しようとする課題】ところがかかる構成の動画符号化データ発生装置1から送出される伝送データD<sub>TRANS</sub>においては、図19(A)及び(B)に示すようにフレーム内符号化処理された完全フレーム内処理フレーム(以下これをイントラフレームと呼び、符号「A」で表す)A1、A9、……と、フレーム内符号化処理された前フレーム予測処理フレーム(以下これを予測フレームと呼び、符号「B」で表す)B3、B5、B7、……及びそれらに応じた補間予測処理フレーム(以下これを補間フレームと呼び、符号「C」で表す)C2、C4、C6、……が、画像データVDの入力フレーム順に伝送されている。

【0018】ところがこのような伝送データD<sub>TRANS</sub>を受け、例えば補間フレームC2を復号化する際には、図19(C)に示すようにイントラフレームA1及び予測フレームB3が必要になり、動画符号化データの復号化装置としてはイントラフレームA1及び予測フレームB3を受けるまでの間、補間フレームC2を遅延させるメモリやその制御回路が必要になり、その分回路構成が複雑になると共に遅延量が多大になることを避け得なかつた。

【0019】このため伝送データD<sub>TRANS</sub>を図19(C)に示すように復号化処理に必要な順序で伝送することが考えられ、このような場合例えば伝送データD<sub>TRANS</sub>はイントラフレームA1、A9、……間の8フレーム分(A1、C2、B3、C4、B5、C6、B7、C8)でなるフレーム群GOF1、GOF2がCD-MOディスクの20セクタ分として記録するようになされている。

【0020】ところがこのようなフレーム順でCD-MOディスクに記録された動画符号化データについて、例えばフレーム群GOF1を編集して書き換えるエディット処理を実行し、先頭から順次再生する際には、フレーム群GOF1中の第8の補間フレームC8は、フレーム群GOF1中の新たな第7の予測フレームB7とフレーム群GOF2中の古い第1のイントラフレームA9に基づいて補間されることにより映像信号を得ることができず、結局エディット結果を正しく再生できないという問題があつた。

【0021】本発明は以上の点を考慮してなされたもので、従来の問題を一挙に解決して、編集された動画符号化データを、簡易な構成で正しく再生することができ

る符号化データ復号化方法及び装置を提案しようとするものである。

【0022】

【課題を解決するための手段】かかる課題を解決するため本発明においては、イントラ符号化によつて生成された第1の符号化データと、表示順上で時間的に前にある画像のみを予測画像として用いることが可能な第1のインター符号化によつて生成された第2の符号化データと、表示順上で時間的に前後にある画像を予測画像として用いることが可能な第2のインター符号化によつて生成された第3の符号化データとを含む符号化画像データV<sub>DREC</sub>が、それぞれいくつかの画像に対応する符号化データを含む複数グループGOFにグループ化され、符号化画像データV<sub>DREC</sub>は、元の先行するグループGOFとは異なるグループGOFに先行されるあるグループGOFを少なくとも1つ含むように編集されてなり、上記あるグループGOFは、元の先行するグループGOFに属する画像を予測画像に用いて第2のインター符号化がなされた画像に対応する符号化データを含み、上記あるグループGOFには編集フラグS<sub>LPG</sub>が設定されているような符号化画像データV<sub>DREC</sub>(V<sub>DPB</sub>)を復号化する符号化データ復号化装置21において、編集フラグS<sub>LPG</sub>の設定の有無を検出する手段90と、編集フラグS<sub>LPG</sub>が設定されていた場合、上記元の先行するグループGOFに属する画像を上記予測画像に用いて第2のインター符号化された画像を出力しないようにする復号化手段とを設けるようにする。

【0023】また本発明においては、復号化手段は、元の先行するグループGOFに属する画像を予測画像に用いて第2のインター符号化された画像のかわりに、直前に復号化されたイントラ符号化された画像を出力するようにする。

【0024】

【発明の実施の形態】以下図面について、本発明を動画符号化データ記録再生装置に適用した場合の実施例を詳述する。

【0025】(1)動画符号化／復号化装置の全体構成図1及び図2において動画符号化／復号化装置21は動画符号化装置21A及び動画復号化装置21Bによつて構成され、動画符号化装置21Aは入力映像信号V<sub>DIN</sub>を入力回路部22において前処理した後、アナログ／デジタル変換回路23において16×16画素分の画素データでなる伝送単位ブロックデータ、すなわちマクロブロックMBの画素データでなる入力画像データS21を画素データ処理系SYM1に送り込むと共に、当該画素データ処理系SYM1の各処理段においてマクロブロックMBを単位として画素データが処理されるタイミングにおいて当該処理されるデータに対応する処理情報データがヘッダデータ処理系SYM2を介して順次伝送されて行くようになされ、かくして画素データ及びヘッダデー

タがそれぞれ画素データ処理系SYM1及びヘッダデータ処理系SYM2において並列処理される。

【0026】この実施例の場合、入力画像データS21として順次送出されて来るマクロブロックデータは、図3に示すような手法でフレーム画像データFRMから抽出される。第1に入力映像信号VD<sub>1n</sub>がCIFの画サイズ(176×144画素)でなる場合、先ず1枚のフレーム画像データFRMは図3(A1)に示すように1個(水平方向に)×3個(垂直方向に)のブロックグループGOBに分割され、各ブロックグループGOBが図3(B)に示すように11個(水平方向に)×3個(垂直方向に)のマクロブロックMBを含むようになされ、各マクロブロックMBは図3(C)に示すように16×16画素分の輝度信号データY<sub>00</sub>～Y<sub>11</sub>(それぞれ8×8画素分の輝度信号データでなる)及び輝度信号データY<sub>00</sub>～Y<sub>11</sub>の全画素データに対応する色信号データでなる色信号データC<sub>0</sub>及びC<sub>1</sub>を含んでなる。

【0027】これに対して第2に入力映像信号VD<sub>1n</sub>がCIFの画サイズ(252×288画素)でなる場合、1枚のフレーム画像データFRMは図3(A2)に示すように2個(水平方向に)×6個(垂直方向に)のブロックグループGOBに分割され、各ブロックグループGOBが図3(B)に示すように11個(水平方向に)×3個(垂直方向に)のマクロブロックMBを含むようになされ、各マクロブロックMBは図3(C)に示すように16×16画素分の輝度信号データY<sub>00</sub>～Y<sub>11</sub>(それぞれ8×8画素分の輝度信号データでなる)及び輝度信号データY<sub>00</sub>～Y<sub>11</sub>の全画素データに対応する色信号データでなる色信号データC<sub>0</sub>及びC<sub>1</sub>を含んでなる。

【0028】かくしてマクロブロックMBごとに送出される入力画像データS21は動き補償回路25に与えられ、動き補償回路25はヘッダデータ処理系SYM2に対して設けられている動き補償制御ユニット26から与えられる動き検出制御信号S22に応動して予測前フレームメモリ27の予測前フレームデータS23と入力画像データS21とを比較して動きベクトルデータMMD(x)及びMMD(y)を検出して動き補償制御ユニット26に第1のヘッダデータHD1(図4)のデータとして供給すると共に、動き補償回路本体25Aにおいて予測前フレームデータS23に対して動きベクトルデータMMD(x)及びMMD(y)分の動き補償をすることにより予測現フレームデータS24を形成して現在処理しようとしている入力画像データS21でなる現フレームデータS25と共に画像データ符号化回路28に供給する。

【0029】ここで動き補償制御ユニット26は、図4に示すように、第1のヘッダデータHD1として現在処理しているマクロブロックごとに、フレーム画像データFRMの伝送順序を表す伝送フレーム番号データTR Counterと、そのブロックグループGOB(図3(A1)、(A2))を表すブロックグループ番号データGOB address

sと、そのうちのマクロブロックMBを表すマクロブロック番号データMB addressとを付加することによつて順次画素データ処理系SYM1の各処理段に伝送されて行くマクロブロックMBを表示するようになされていると共に、当該処理対象マクロブロックMBの処理ないし処理形式を表すフラグデータFLAGSと、当該マクロブロックMBの動きベクトルデータMMD(x)及びMMD(y)と、その評価値を表す差分データΣ|A-B|とを形成する。

【0030】フラグデータFLAGSは図5に示すように、最大限1ワード(16ビット)分のフラグをもち得るようになされ、第0ビットには、当該処理対象マクロブロックMBについて動き補償モードで処理すべきか否かを表す動き補償制御フラグMC on/offがセットされる。またフラグデータFLAGSの第1ビットには、当該処理対象マクロブロックMBをフレーム間符号化モードで処理すべきであるか又はフレーム内符号化モードで処理すべきであることを表すフレーム間/フレーム内フラグInter/Intraがセットされる。

【0031】またフラグデータFLAGSの第2ビットには、動き補償回路25のループフィルタ25Bを使用するか否かを表すフィルタフラグFilter on/offが設定される。またフラグデータFLAGSの第3ビットには、当該処理対象マクロブロックに含まれるブロックデータY<sub>00</sub>～C<sub>1</sub>(図3(C))を伝送すべきであるか否かを表す送信フラグCoded/Not-codedを設定できるようになされている。

【0032】またフラグデータFLAGSの第4ビットには、当該処理対象マクロブロックMBを駒落しするか否かを表す駒落しフラグDrop frame flagを設定し得るようになされている。またフラグデータFLAGSの第5ビットには、当該処理対象マクロブロックMBを強制リフレッシュするか否かを表す強制リフレッシュフラグRefresh on/offを設定できるようになされている。

【0033】またフラグデータFLAGSの第6ビットには、マクロブロックパワー評価フラグMBP appreciateを設定できるようになされている。また差分データΣ|A-B|は、現フレームデータS25の現在処理しようとするマクロブロックデータAと、予測前フレームデータS23の検出用動きベクトルによつて補償されたマクロブロックデータBとの差分のうちの最小値を表し、これにより検出された動きベクトルの評価をなし得るようになされている。

【0034】画像データ符号化回路28はフレーム内符号化モードのとき動き補償回路25から与えられる現フレームデータS25をそのまま差分データS26として変換符号化回路29に供給し、これに対してフレーム間符号化モードのとき現フレームデータS25の画素データと予測現フレームデータS24の画素データとの差分でなる差分データS26を変換符号化回路29に供給する。

【0035】ヘッダデータ処理系SYM2には画像データ符号化回路28に対応するようにフレーム間／フレーム内符号化制御ユニット30が設けられ、動き補償制御ユニット26から供給されるヘッダデータHD1及び画像データ符号化回路28から供給される演算データS31に基づいて、画像データ符号化回路28の符号化モードを指定するためのフレーム間／フレーム内フラグInter/Intra（図5）及び動き補償回路25のループフィルタ25Bの動作を制御するためのフィルタフラグFilter on/off（図5）とを得るのに必要なデータを演算して

第2のヘッダデータHD2としてフィルタ制御ユニット31に送出する。

【0036】第2のヘッダデータHD2は、図4に示すように、ヘッダデータHD1を構成する伝送フレーム番号データTR Counter～差分データ $\Sigma |A-B|$ をそのまま引き継ぐと共に、フィルタ制御ユニット31においてフレーム間／フレーム内符号化モード切換信号S33及びフィルタオン／オフ信号S34を形成するために必要なパワーデータ $\Sigma (A)^2 (L)$ 及び $\Sigma (A)^2 (H)$ 、 $\Sigma (A-B)^2 (L)$ 及び $\Sigma (A-B)^2 (H)$ 、 $\Sigma (A-FB)^2 (L)$ 及び $\Sigma (A-FB)^2 (H)$ 、 $\Sigma (A)$ をフレーム間／フレーム内符号化制御ユニット30において付加されるようになされている。

【0037】ここで、パワーデータ $\Sigma (A)^2 (L)$ 及び $\Sigma (A)^2 (H)$ は現フレームデータS25のマクロブロック画素データAの2乗和の下位ビット及び上位ビットを表し、パワーデータ $\Sigma (A-B)^2 (L)$ 及び $\Sigma (A-B)^2 (H)$ は現フレームデータS25のマクロブロック画素データAとループフィルタ25Bを介さずに形成された予測現フレームデータS24のマクロブロック画素データBとの差分A-Bの2乗和の下位ビット及び上位ビットを表し、パワーデータ $\Sigma (A-FB)^2 (L)$ 及び $\Sigma (A-FB)^2 (H)$ は現フレームデータS25のマクロブロック画素データAとループフィルタ25Bを介して形成された予測現フレームデータS24のマクロブロック画素データFBとの差分A-FBの2乗和の下位ビット及び上位ビットを表し、パワーデータ $\Sigma (A)$ は現フレームデータS25のマクロブロック画素データAの和を表し、それぞれ処理するデータの大きさを評価するためにデータ量をパワー値として表現したもの（2乗和は符号に無関係な値として求めた）である。

【0038】フィルタ制御ユニット31は、フレーム間／フレーム内符号化制御ユニット30から渡された第2のヘッダデータHD2と、伝送バッファメモリ32から供給される残量データS32とに基づいて、画像データ符号化回路28に対してフレーム間／フレーム内符号化モード切換信号S33を送出すると共に、ループフィルタ25Bに対してフィルタオン／オフ信号S34を送出すると共に、当該フィルタオン／オフ信号S34の内容を表すフィルタフラグFilter on/offを第2のヘッダデ

ータHD2に付加して第3のヘッダデータHD3としてスレシヨルド制御ユニット35に渡す。ここでフィルタ制御ユニット31は第1に、フレーム間符号化処理をした場合の伝送データ量の方がフレーム内符号化処理をした場合の伝送データ量より大きくなつたとき画像データ符号化回路28をフレーム内符号化モードに制御する。

【0039】またフィルタ制御ユニット31は第2に、フレーム間符号化モードで処理をしている状態においてループフィルタ25Bにおける処理を受けた予測現フレームデータS24より当該処理を受けない予測現フレームデータS24の方が差分値が小さい場合には、フィルタオン／オフ信号S34によつてフィルタリング動作をさせないようにループフィルタ25Bを制御する。

【0040】またフィルタ制御ユニット31は第3に、強制リフレッシュモードになつたとき、フレーム間／フレーム内符号化モード切換信号S33によつて画像データ符号化回路28をフレーム内符号化モードに切り換える。さらにフィルタ制御ユニット31は第4に、伝送バッファメモリ32から供給される残量データS32に基づいて伝送バッファメモリ32がオーバーフローするおそれがある状態になつたとき、これを検出して駒落し処理をすべきことを命令するフラグを含んでなる第3のヘッダデータHD3をスレシヨルド制御ユニット35に送出する。

【0041】かくして画像データ符号化回路28は現フレームデータS25と予測現フレームデータS24との差分が最も小さくなるようなモードで符号化してなる差分データS26を変換符号化回路29に供給する。

【0042】第3のヘッダデータHD3は、図4に示すように、ヘッダデータHD2から伝送フレーム番号データTR Counter～動きベクトルデータMVD(x)及びMVD(y)を引き継ぐと共に、フィルタ制御ユニット31においてブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ に対応する6ビット分のフィルタフラグFilter on/offを付加される。

【0043】変換符号化回路29はディスクリートコサイン変換回路でなりディスクリートコサイン変換後の係数値を6個のブロック $Y_{00}$ 、 $Y_{01}$ 、 $Y_{10}$ 、 $Y_{11}$ 、 $C_0$ 、 $C_r$ ごとにジグザグスキヤンしてなる変換符号化データS35として伝送ブロック設定回路34に送出する。

【0044】伝送ブロック設定回路34は変換符号化データS35として送出されて来る6個のブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ （図3（C））について、それぞれ先頭の係数データからn個までの2乗和を演算して当該演算結果をパワー検出データS36としてスレシヨルド制御ユニット35に渡す。

【0045】このときスレシヨルド制御ユニット35は各ブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ ごとにパワー検出データS36を所定のスレシヨルドと比較し、パワー検出データS36が当該スレシヨルドより小さいとき当該ブロックデータの伝送を許容せず、これに対して大きいとき許容

10

20

30

40

50

することを表す6ビット分の伝送可否データCBPNを形成してこれをフィルタ制御ユニット31から渡された第3のヘッダデータHD3に付加して第4のヘッダデータHD4として量子化制御ユニット36に渡すと共に、伝送ブロック設定回路34から対応するブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ を量子化回路37に送信ブロックパターン化データS37として送出させる。

【0046】ここで第4のヘッダデータHD4は図4に示すように、ヘッダデータHD3の伝送フレーム番号データTR CounterへフィルタフラグFilter on/offをそのま引き継ぐと共に、スレシヨルド制御ユニット35においてブロック $Y_{00} \sim C_r$ に対応して発生する6ビット分の送信可否フラグCBPNが付加される。

【0047】量子化制御ユニット36はスレシヨルド制御ユニット35から渡された第4のヘッダデータHD4と、伝送バッファメモリ32から送出される残量データS32とに基づいて、量子化ステップサイズ決定処理を実行して得られる量子化ステップサイズ制御信号S38を量子化回路37に与え、これにより量子化回路37をマクロブロックMBに含まれるデータに適応した量子化ステップサイズで量子化処理させ、その結果量子化回路37の出力端に得られる量子化画像データS39を可変長符号化回路38に供給させる。

【0048】これと共に量子化制御ユニット36は、図4に示すように、第5のヘッダデータHD5として、ヘッダデータHD4に基づいてブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ （図3（C））にそれぞれ対応するフラグデータFLAG S及び動きベクトルデータMMD(x)及びMMD(y)に分離してこれを直列に配列させたデータを形成して可変長符号化回路38及び逆量子化回路40に渡す。

【0049】ここで、ヘッダデータHD5は、図4に示すように、ヘッダデータHD4のうち伝送フレーム番号データTR Counterへマクロブロック番号データMB addressをそのまま引き継ぐと共に、量子化制御ユニット36において量子化サイズデータQNTと、ブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ に対するフラグデータFLAG S、動きベクトルデータMMD(x)及びMMD(y)を付加する。

【0050】可変長符号化回路38はヘッダデータHD5及び量子化画像データS39を可変長符号化処理して伝送画像データS40を形成し、これを伝送バッファメモリ32に供給する。可変長符号化回路38はブロックデータ $Y_{00} \sim C_r$ を可変長符号化する際に、対応するフラグデータFLAG Sに基づいて「駒落し」、又は「送信不可」が指定されているとき、当該ブロックデータを伝送画像データS40として送出させずに捨てるような処理をする。

【0051】伝送バッファメモリ32は伝送画像データS40を溜め込んで行くと共に、これを所定の伝送速度で読み出してマルチプレクサ41において音声データ発生装置42から送出される伝送音声データS41と合成

して動画符号化データVD<sub>rec</sub>としてCD-MO装置に送出する。

【0052】逆量子化回路40は量子化回路37から送出される量子化画像データS39をヘッダデータHD5に基づいて逆量子化した後、当該逆量子化データS42を逆変換符号化回路43に供給することにより逆変換符号化データS43に変換させた後デコーダ回路44に供給させ、かくして伝送画像データS40として送出された画像情報を表す符号化差分データS44を予測前フレームメモリ27に供給させる。このとき予測前フレームメモリ27は、符号化差分データS44を用いてそれまで保存していた予測前フレームデータを修正演算して新たな予測前フレームデータとして保存する。

【0053】かくして図1の構成の動画符号化装置21Aによれば、ヘッダデータ処理系SYM2から供給されるヘッダ情報に基づいて画素データ処理系SYM1において画素データがマクロブロック単位でパイプライン処理されて行くのに対して、これと同期するようにヘッダデータ処理系SYM2においてヘッダデータを受け渡して行くようにすることにより、ヘッダデータ処理系SYM2の各処理段において必要に応じてヘッダデータを付加又は削除することにより画素データを必要に応じて適応処理できる。

【0054】動画復号化装置21Bは図2に示すように、CD-MO装置から再生される動画符号化データVD<sub>ps</sub>をデマルチプレクサ51を介して伝送バッファメモリ52に受けると共に、伝送音声データS51を音声データ受信装置53に受ける。

【0055】伝送バッファメモリ52に受けた画像データは可変長逆変換回路54において受信画像データS52及びヘッダデータHD11に分離され、逆量子化回路55において逆量子化データS53に逆量子化された後、逆変換符号化回路56においてディスクリット逆変換処理されて逆変換符号化データS54に逆変換される。

【0056】この逆変換符号化データS54は逆量子化回路55において形成されたヘッダデータHD12と共にデコーダ回路57に与えられ、符号化差分データS55としてフレームメモリ58に蓄積される。

【0057】かくしてフレームメモリ58には符号化差分データS55に基づいて伝送されてきた画像データが復号化され、当該復号化画像データS56がデジタル／アナログ変換回路59においてアナログ信号に変換された後、出力回路部60を介して出力映像信号VD<sub>out</sub>として送出される。

【0058】（2）実施例による動画符号化データの記録順序

図1及び図2との対応部分に同一符号を付して示す図6において、70は全体として本発明による符号化データ復号化方法を適用した動画符号化データ記録再生装置を



示す。この動画符号化データ記録再生装置 70 の場合、入力映像信号  $VD_{IN}$  が上述した動画符号化／復号化装置 21 を通じて高能率符号化され、この結果得られる動画符号化データ  $VD_{REC}$  が CD-MO 装置 71 に入力されて CD-MO ディスク (図示せず) に記録される。

【0059】逆に CD-MO 装置 71 から得られる再生信号が動画符号化データ  $VD_{PB}$  として、動画符号化／復号化装置 21 に入力され、この結果動画符号化データ  $VD_{PB}$  を復号化して得られる出力映像信号  $VD_{OUT}$  が送出される。この動画符号化データ記録再生装置 70 の場合、動画符号化／復号化装置 21 はバス 72 を通じて CPU (中央処理ユニット) を含む記録再生制御回路 73 に接続され、この記録再生制御回路 73 によつて入力映像信号  $VD_{IN}$  の符号化及び動画符号化データ  $VD_{PB}$  の復号化が制御される。

【0060】これに加えて CD-MO 装置 71 は SCSI (small computer system interface) を内蔵し、SCSI バス 74、SCSI 制御回路 75 及びバス 72 を通じて、記録再生制御回路 73 に接続され、これにより記録再生制御回路 73 によつて記録再生動作が制御される。

【0061】ここで動画符号化／復号化装置 21 から送出される動画符号化データ  $VD_{REC}$  は、図 7 に示すような階層 (レイヤ) 構造を有するフォーマットで CD-MO 装置 71 に入力され、また CD-MO 装置 71 から同様のフォーマットで動画符号化データ  $VD_{PB}$  として動画符号化／復号化装置 21 に入力される。

【0062】すなわち動画符号化データ  $VD_{REC}$  及び  $VD_{PB}$  においては、フレーム群レイヤとして入力映像信号  $VD_{IN}$  の 8 フレーム分に対応したデータを 1 フレーム群 GOF として、当該 1 フレーム群の開始を表すフレーム群スタートコード (GOFSC)、直前の GOF との連続関係を表すリンクフラグ (LPG)、伝送するフレームの水平、垂直サイズや水平及び垂直方向の画素数比等を表すデータ (HORSIZE、VERSIZE、HVPRAT)、伝送フレームのレートを表すデータ (RATE)、1 フレーム分の画像データでなるピクチャレイヤのデータ (P.data) の 8 フレーム分及びスタツフイングビット (TSB) から構成されている (図 7 (A))。

【0063】ピクチャレイヤのデータ (P.data) の 1 フレーム分は、1 フレームの開始を表すフレームスタートコード (PSC)、フレーム番号 (TR)、拡張情報を表すデータ (PEI、PSPARE) 及びブロック単位の画像データでなるブロックグループレイヤのデータ (GOB data) の 1 フレーム分から構成されている (図 7 (B))。

【0064】ブロックグループレイヤのデータ (GOB data) の 1 ブロックグループ分は、1 ブロックグループの開始を表すブロックグループスタートコード (GBSC)、ブロックグループのアドレスデータ (GN)、ブロックグループ単位の再量子化ステップサイズに関するデータ (CQUAN

T)、拡張情報を表すデータ (GEI、GSPARE) 及びマクロブロックレイヤのデータ (MB data) の 1 ブロックグループ分から構成されている (図 7 (C))。

【0065】マクロブロックレイヤのデータ (MB data) の 1 マクロブロック分は、マクロブロックのアドレスを表すデータ (MBA)、マクロブロックのタイプを表すデータ (MTYPE)、マクロブロックにおける再量子化ステップサイズのデータ (MQUANT)、マクロブロック毎の動きベクトルのデータ (MVD1、MVD2)、マクロブロック内のブロックパターンのデータ (CBP) 及びブロックレイヤのデータ (Block data) の 1 マクロブロック分から構成されている (図 7 (D))。

【0066】ブロックレイヤのデータ (Block data) の 1 ブロック分は、所定数の係数データ (TCOE) とブロックレイヤの終わりを表すデータ (EOB) から構成されている (図 7 (E))。

【0067】ここでこの実施例による動画符号化装置 21 A においては、図 8 (A) に示す従来同様の入力映像信号  $VD_{IN}$  に基づくフレーム記録順序に代え、図 8

(B) に示すように動画復号化装置 21 B 側の復号化処理に応じたフレーム記録順序でなる動画符号化データ  $VD_{REC}$  を CD-MO 装置 71 に送出し記録するようになされ、CD-MO 装置 71 から再生された動画符号化データ  $VD_{PB}$  がこのフレーム記録順序で動画復号化装置 21 B に入力される。

【0068】このようにすれば、例えば補間フレーム C2 を復号化する際、復号化に必要なイントラフレーム A1 及び予測フレーム B3 がすでに入力され、また例えば補間フレーム C4 を復号化する際、復号化に必要な予測フレーム B3 及び B5 がすでに入力され、これにより動画復号化装置 21 B は直ちに補間フレーム C2 又は C4 の復号化処理を実行することができる。

【0069】ここでこの実施例の動画符号化装置 21 A の場合、図 9 に示すように、動き補償回路 25 に内蔵されたフレーム順並べ替え回路 80 を用いて、入力映像信号  $VD_{IN}$  に基づくフレーム記録順序を上述のように復号化処理に応じたフレーム記録順序に並べ替えるようになされている。

【0070】このフレーム順並べ替え回路 80 においては、第 1～第 3 の 1 フレーム遅延回路 81、82 及び 83 を有して構成されており、フレーム順の並べ替え処理に加えて、動きベクトルの検出処理を実行し得るようになされている。すなわち入力映像信号  $VD_{IN}$  は入力回路部 22 及びアナログデジタル変換回路 23 において所定の処理が施され、この結果得られる入力映像データ S21 が第 1 の 1 フレーム遅延回路 81 に入力される。

【0071】この第 1 の 1 フレーム遅延回路 81 から送出された第 1 の遅延データ  $S_{01}$  は、第 2 の 1 フレーム遅延回路 82 に入力されると共に、第 1 のフレーム選択回路 84 の第 1 の入力端 a に入力される。また第 2 の 1 フ

10

20

30

40

50

フレーム遅延回路82から送出される第2の遅延データ $S_{02}$ は第3の1フレーム遅延回路83を通じ、さらに1フレーム分遅延され第3の遅延データ $S_{03}$ として第1のフレーム選択回路84の第2の入力端bに入力される。

【0072】これによりこのフレーム順並べ替え回路80においては、1フレーム毎のタイミングで順次入力画像データ $S_{21}$ を入力すると共に、これに同期したフレームパルスFPのタイミングで順次第1のフレーム選択回路84の第1又は第2の入力端a又はbを選択制御することにより、フレーム順の並べ替え処理を実行し得るようになっている。

【0073】なお入力画像データ $S_{21}$ 及び第1の遅延データ $S_{01}$ は第1の動きベクトル検出回路85に入力され、この結果得られる入力画像データ $S_{21}$ 及び第1の遅延データ $S_{01}$ 間の動きベクトルデータ $D_{mv1}$ 及び差分データ $D_{dr1}$ が動き補償ユニット26に送出される。

【0074】また第2及び第3の遅延データ $S_{02}$ 及び $S_{03}$ が第2のフレーム選択回路86の第1及び第2の入力端a及びbに入力され、フレームパルスFPのタイミングで何れか一方が選択されて第2の動きベクトル検出回路87に入力される。この第2の動きベクトル検出回路87には、これに加えて第1の遅延データ $S_{01}$ が入力されており、この結果得られる第1の遅延データ $S_{01}$ 及び第2又は第3の遅延データ $S_{02}$ 又は $S_{03}$ 間の動きベクトルデータ $D_{mv2}$ 及び差分データ $D_{dr2}$ が動き補償ユニット26に送出される。かくして入力画像信号 $VD_{IN}$ について高能率符号処理して動画符号化データ $VD_{REC}$ を得る際に、入力画像信号 $VD_{IN}$ に基づくフレーム順序に代えて、復号化処理に応じたフレーム順序に並べ替えるようにしたことにより、復号化処理側の回路構成及び制御を簡略かつ効率化し得る動画符号化データ伝送方法を実現できる。

【0075】(3)実施例による動画符号化データのエディット処理

ここでこの動画符号化データ記録再生装置70の記録再生制御回路73は、外部から入力されたエディット命令に応動して、図10に示すエディット処理手順RT0を実行し、これにより図11に示すように、CD-MOディスク上の20セクタ毎に1フレーム群分記録された動画符号化データ $VD_{REC}$ を1フレーム群単位で書換え、かくしてエディット処理を実行するようになっている。

【0076】なおこの実施例の場合動画符号化データ $VD_{IN}$ においては、図8(C)に示すようにイントラフレームから続く補間フレーム及び予測フレームA1、C2、B3、C4、B5、C6、B7、C8の8フレーム分を1フレーム群GOF1、GOF2、……とした従来の方法に代え、イントラフレームA1の直前の補間フレームC0に続くイントラフレーム、補間フレーム及び予測フレームC0、A1、C2、B3、C4、B5、C6、B7を1フレーム群GOF11、GOF12、……

として伝送するようになっている。

【0077】このようにして1フレーム群GOF11、GOF12、……内のフレームが、他のフレーム群GOF11、GOF12、……に含まれてしまう不都合を未然に防止し得るようになっている。実際上記記録再生制御回路73は、図10に示すエディット処理手順RT0から入って次のステップSP1においてエディット命令の解析処理を実行する。

【0078】ここで例えば図11に示す第3及び第4のフレーム群GOF3及びGOF4の40セクタ分について、新たな動画符号化データ $VD_{REC}$ と書き換えることが指示されると、記録再生制御回路73は次のステップSP2に移る。

【0079】このステップSP2において、記録再生制御回路73はSCSI制御回路75にエディット命令に応じた制御命令を送出し、これによりSCSIバス74を通じてCD-MOディスクの書き換え制御を実行する。なおこのときバス72を通じて記録再生制御回路73の制御によつて、新たな2フレーム群GOF3N、GOF4N分の入力映像信号 $VD_{IN}$ が動画符号化/復号化装置21を通じて動画符号化データ $VD_{REC}$ としてCD-MO装置71に入力される。

【0080】続いて記録再生制御回路73は次のステップSP3を実行し、書換え処理が終了したか否かを判断し、ここで否定結果を得るとステップSP2に戻りCD-MOディスクの書き換え制御を継続し、やがて肯定結果を得るとステップSP4に移る。このステップSP4において記録再生制御回路73は、エディットしたCD-MOディスクの先頭セクタ(この実施例の場合、第40セクタでなる)の内容を読む。

【0081】これにより記録再生制御回路73は次のステップSP5において、先頭セクタの先頭から25ビット目に存在するフレーム群レイヤのリンクフラグ(LPG)をエディットフラグとして設定し、これをCD-MOディスクの読み出したセクタ位置に書き込む。

【0082】続いて記録再生制御回路73はステップSP6において、エディットしたCD-MOディスクの最終セクタに続くセクタ(この実施例の場合、第80セクタでなる)の内容を読む。これにより記録再生制御回路73は次のステップSP7において、当該セクタの先頭から25ビット目に存在するフレーム群レイヤのリンクフラグ(LPG)を上述と同様にエディットフラグとして設定し、これをCD-MOディスクの読み出したセクタ位置に書き込み、次のステップSP8において当該エディット処理手順RT0を終了する。

【0083】實際上このようにしてエディットされてCD-MOディスク上に記録された動画符号化データ $VD_{REC}$ は、記録再生制御回路73の制御によつて読み出され、この結果再生信号として得られる動画符号化データ $VD_{PB}$ が動画符号化/復号化装置21に入力される。

【0084】(4) 実施例によるエディットされた符号化データの復号化方法

この実施例の場合動画復号化装置 21B においては、図 12 に示すようにデコーダ回路 57 に含まれるフレーム順逆並べ替え回路 90 を用いて、復号化処理に応じたフレーム順序から入力画像信号  $V D_{IN}$  に基づくフレーム順序に並べ替える逆並べ替え処理を実行すると共に、フレーム群レイヤのリンクフラグ(LPG) に設定されたエディットフラグを参照してエディット再生処理を実行するようになされている。

【0085】すなわち逆変換符号化回路 56 から送出される逆変換符号化データ  $S 54$  は、デコーダ回路 57 のセクタ回路 91 の第 1 の入力端 A に直接入力されると共に、フレームメモリ 92 を通じて例えば 2 フレーム分遅延されて第 2 に入力端 B に入力される。

【0086】このセクタ回路 91 及びフレームメモリ 92 はそれぞれフレームパルス F P のタイミングで動作し、これにより復号化処理に応じたフレーム順序 (図 8 (B)) から入力画像信号  $V D_{IN}$  に基づくフレーム順序 (図 8 (A)) への逆並べ替え処理を実行するようになされている。

【0087】なおこのセクタ回路 91 には、逆量子化回路 55 において形成されたヘッダデータ HD 12 のうちリンクフラグ(LPG) に設定されたエディットフラグに応じたエディットフラグ信号  $S_{LPG}$  が入力され、このエディットフラグ信号  $S_{LPG}$  が設定されていることを表すときのみセレクト動作を中断し、次に到来するフレームをそのまま出力する。

【0088】このようにして例えばエディットされた新たなフレーム群 GOFN3、GOFN4 中のフレームデータに対して、古いフレーム群 GOF1、GOF2、GOF5、……中のフレームデータが混入して再生画像に乱れが生じるおそれを未然に防止し得るようになっている。因に図 8 (D) に示すフレーム群 GOF12 にエディットフラグが設定されている場合には、逆並べ替え後の第 8 の補間フレーム C8 に代えて、イントラフレーム A9 が 2 フレーム分出力される。

【0089】以上の構成によれば、エディットされたフレーム群及びエディット直後のフレーム群のリンクフラグ(LPG) にエディットフラグ  $S_{LPG}$  が設定されてなる編集後の動画符号化データを復号化する際に、エディットフラグ  $S_{LPG}$  の有無を検出し、エディットフラグ  $S_{LPG}$  が設定されている場合には元の先行するフレーム群に属する画像を予測画像に用いて補間フレームを出力せず、直前に復号化したイントラフレームを出力するようにして復号化するようにしたことにより、編集後の動画符号化データを正しく再生することができる。

【0090】(5) 他の実施例

(5-1) 上述の実施例においては、記録された動画符号化データについてフレーム群単位でエディット処理を

実行する際、エディットされたフレーム群及びエディット直後のフレーム群のリンクフラグ(LPG) にエディットフラグを設定した場合について述べたが、これに代え、例えばエディット処理したフレーム群を記録再生制御回路 73 が記憶している場合には、エディット直後のフレーム群のリンクフラグ(LPG) にエディットフラグを設定するのみで良好にエディット処理を実行し得る。

【0091】(5-2) また上述の実施例においては、記録された動画符号化データについてフレーム群単位でエディット処理を実行する際、エディットされたフレーム群及びエディット直後のフレーム群のリンクフラグ(LPG) にエディットフラグを設定した場合について述べたが、これに代え、動画符号化装置 21A 側でピクチャレイヤのフレーム番号(TR)に、記録再生制御回路 73 で発生した所定の乱数から始まる連番を順次付加し、エディット再生処理時にこのフレーム番号(TR)の不連続を検出したタイミングで上述したエディットフラグ信号  $S_{LPG}$  と同様の信号を発生するようにすれば、上述の実施例と同様の効果を実現できる。

【0092】因に、この場合フレーム番号(TR)の不連続は、図 13 に示すような不連続検出回路 95 で検出される。すなわちこの不連続検出回路 95 においては、上述のフレーム順逆並べ替え回路 90 に併設され、逆変換符号化データ  $S 54$  に含まれるピクチャレイヤのフレーム番号(TR)が比較回路 96 及びラッチ回路 97 に入力される。

【0093】このラッチ回路 97 はフレームパルス F P のタイミングでラッチ動作を実行し、この結果 1 フレーム分遅延したフレーム番号(TR)が加算回路 98 に入力されて値「1」が加算され、比較フレーム番号  $C_{TR}$  として比較回路 96 に入力される。これにより比較回路 96 は、フレーム番号(TR)及び比較フレーム番号  $C_{TR}$  の値を比較し、両者が不一致のとき論理「H」レベルでなる不一致検出信号を発生し、これをアンド回路 99 に送出する。

【0094】アンド回路 99 にはこれに加えて、先頭フレーム群の再生処理のとき論理「H」レベルを有する先頭フレーム群信号 GOF F が反転回路 100 を通じて反転して入力されており、これにより先頭フレーム群の再生処理のとき、不一致検出信号を論理「L」レベルに制御し、それ以外のとき不一致検出信号に応じた論理レベルを有するエディットフラグ信号  $S_{LPG}$  をフレーム順逆並べ替え回路 90 のセクタ回路 91 に送出する。

【0095】(5-3) さらに上述の実施例においては、動画符号化データについてフレーム群単位でエディット処理を実行する際、エディットフラグやフレーム番号(TR)を用いてエディットされたフレーム群を識別するようにしたが、フレーム群の各補間フレーム C についてフレーム群内のイントラフレーム A 及び予測フレーム B のみを用いて補間し、フレーム群内で各フレームの関係

10

20

30

40

50

が完結するようにすれば、画質について多少の劣化が生じてても容易かつ自在にエディット処理を実行し得る動画符号化データ記録方法を実現できる。

【0096】(5-4)さらに上述の実施例においては、イントラフレームA、予測フレームB及び補間フレームCが、図8(A)に示すように配置された動画符号化データのフレーム順序を並べ替えるようにした場合について述べたが、動画符号化データのフレーム配置はこれに限らず、図14(A)や図15(A)に示すような場合でも、要は図14(B)や図15(B)に示すよう

に復号化側の処理順に応じたフレーム順に並べ替えて伝送するようにすれば、上述の実施例と同様の効果を実現できる。

【0097】またこの場合図14(C)や図15(C)に示すフレーム群GOF1、GOF2、……の配置に代え、図14(D)や図15(D)に示すようなフレーム群GOF21、GOF22、……やGOF31、GOF32、……の配置にすれば、エディット処理についても上述の実施例と同様の効果を実現できる。

【0098】(5-5)さらに上述の実施例においては、映像信号を高能率符号化してCD-MOディスクに記録し再生する場合について述べたが、記録媒体はこれに限らず、他の光ディスクや磁気ディスク、磁気テープ等に広く適用して好適なものである。

【0099】(5-6)さらに上述の実施例においては、映像信号を高能率符号化してCD-MOディスクに記録し再生する場合について述べたが、本発明はこれに限らず、映像信号を高能率符号化して伝送する動画符号化データ伝送方法に広く適用して好適なものである。

【0100】

【発明の効果】上述のように本発明によれば、編集フラグの有無を検出し、編集フラグが設定されていた場合には先行するグループに属する画像を予測画像に用いて、表示順上で時間的に前後にある画像を予測画像として用いることが可能なインター符号化によつて生成された画像を出力しないようにしたことにより、編集後の符号化画像データを正しく復元し得る符号化データ復号化方法及び装置を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例による動画符号化装置の構成を示すブロック図である。

【図2】実施例による動画復号化装置の構成を示すブロック図である。

【図3】フレーム画像データの構成を示す略線図であ

る。

【図4】ヘッダデータ処理系の詳細構成を示すブロック図である。

【図5】フラグデータの構成を示す略線図である。

【図6】実施例による動画符号化データ記録再生装置の構成を示すブロック図である。

【図7】記録再生データのフォーマットの説明に供する略線図である。

【図8】実施例による動画符号化データの記録順序の説明に供する略線図である。

【図9】フレーム順並べ替え回路の構成を示すブロック図である。

【図10】エディット処理の説明に供するフローチャートである。

【図11】CD-MOディスクの記録領域の説明に供する略線図である。

【図12】フレーム順逆並べ替え回路の構成を示すブロック図である。

【図13】他の実施例による不連続検出回路を示すブロック図である。

【図14】他の実施例による動画符号化データの記録順序の説明に供する略線図である。

【図15】他の実施例による動画符号化データの記録順序の説明に供する略線図である。

【図16】フレーム内/フレーム間符号化処理の説明に供する略線図である。

【図17】従来の動画符号化データ発生装置を示すブロック図である。

【図18】その量子化ステップを示す特性曲線図である。

【図19】従来の動画符号化データの記録順序の説明に供する略線図である。

【符号の説明】

21……動画符号化/復号化装置、21A……動画符号化装置、21B……動画復号化装置、25……動き補償回路、26……動き補償制御ユニット、27……予測前フレームメモリ、28……画像データ符号化回路、29……変換符号化回路、30……フレーム間/フレーム内符号化制御ユニット、31……フィルタ制御ユニット、32……伝送バッファメモリ、34……伝送ブロック設定回路、35……スレシヨルド制御ユニット、36……量子化制御ユニット、37……量子化回路、38……可変長符号可回路。

【図 1】

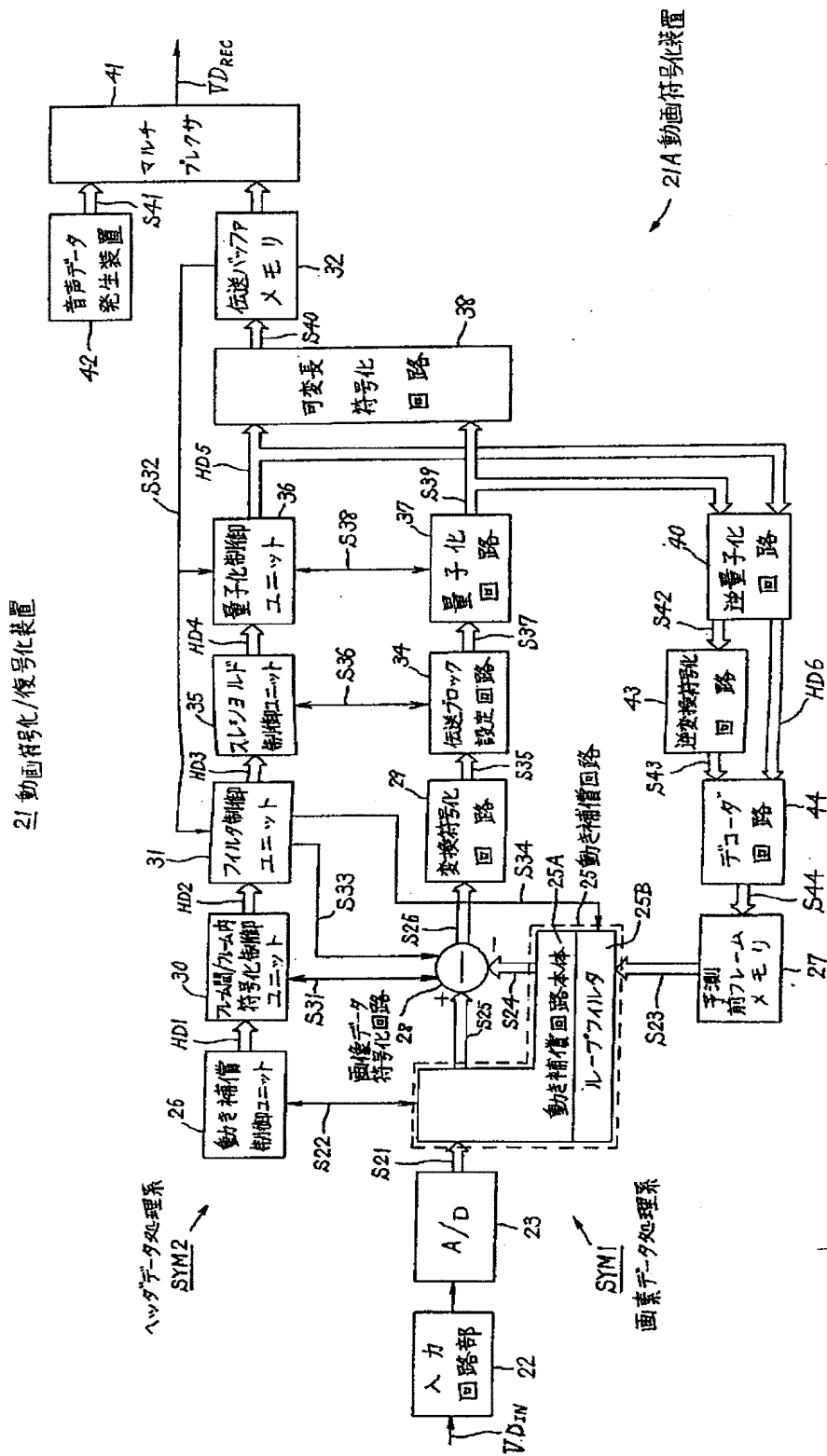


図 1 動画符号化装置の構成

【図2】

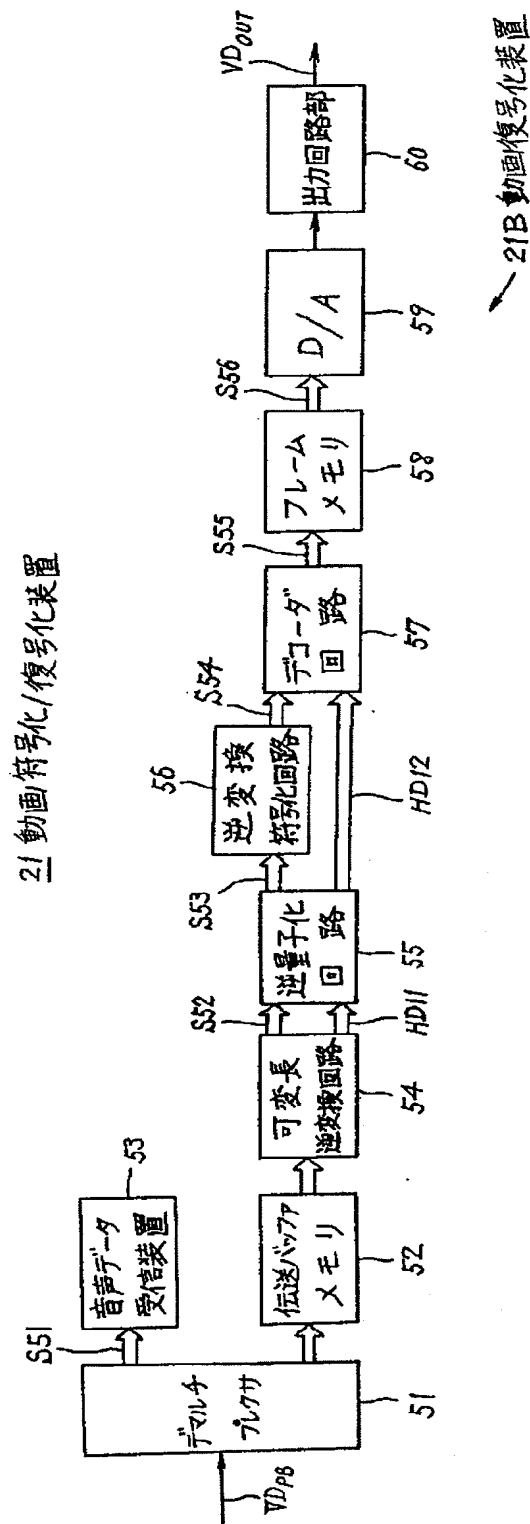


図2 動画復号装置の構成

【図 3】

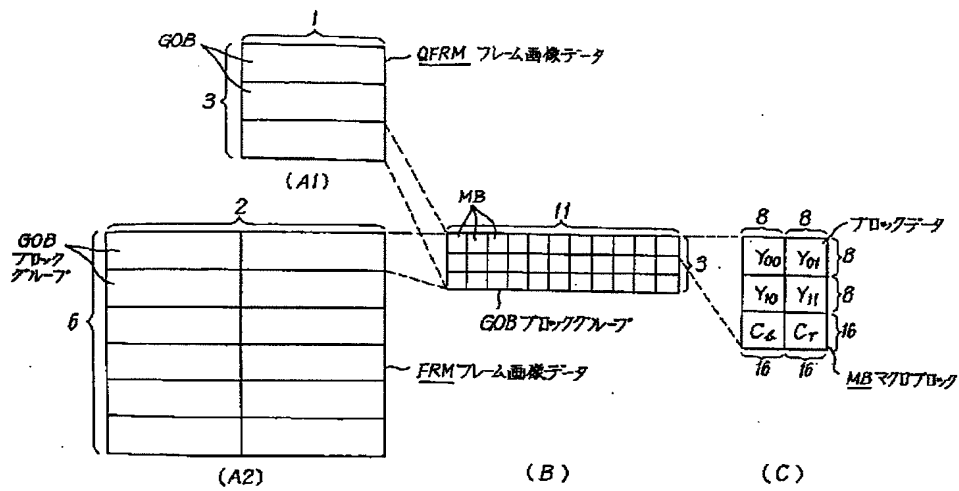


図 3 マクロブロックデータの構成

【図 6】

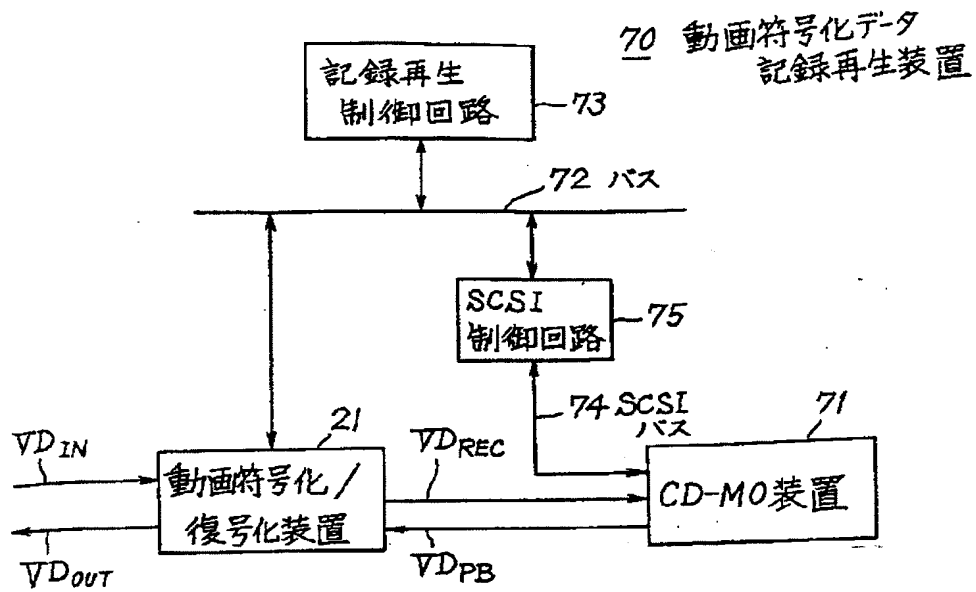
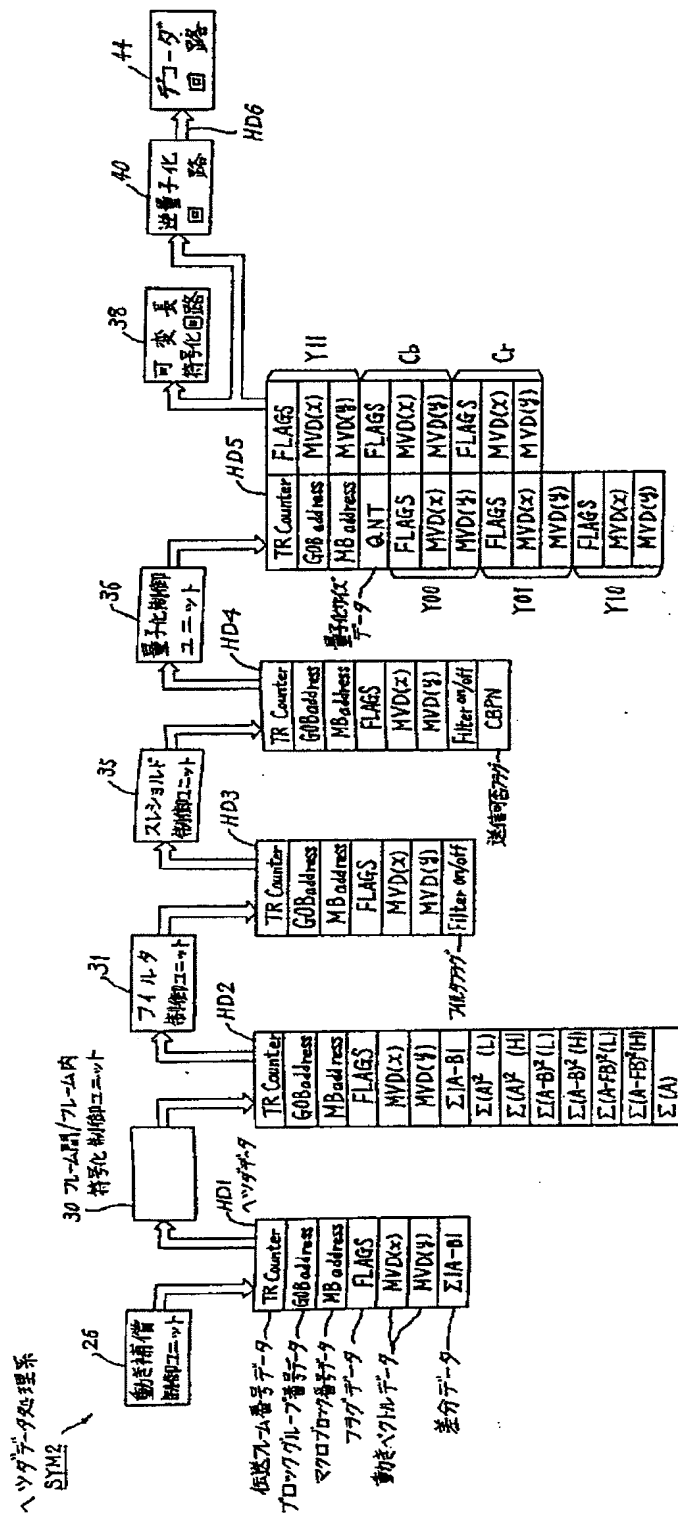


図 6 実施例の動画符号化データ記録再生装置の全体構成

#### 図4 ヘッドデータ処理系の詳細





【図5】

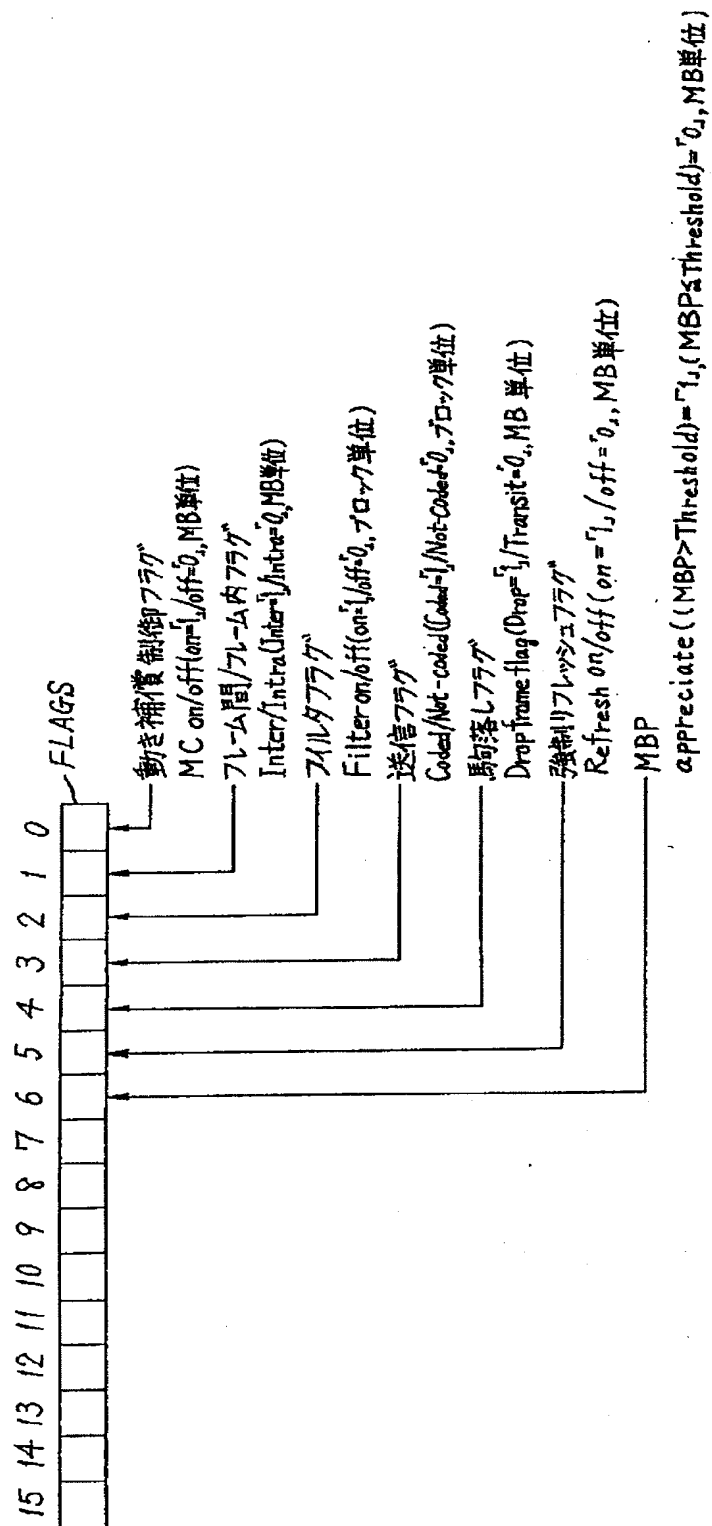


図5 フラグデータの構成

【図11】

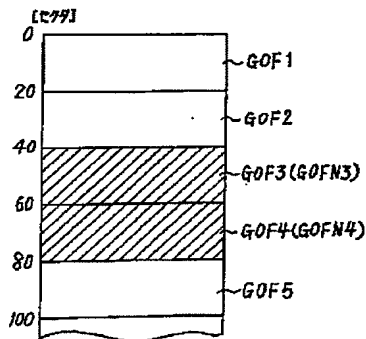


図11 CD-MOディスクの記録領域

【図8】

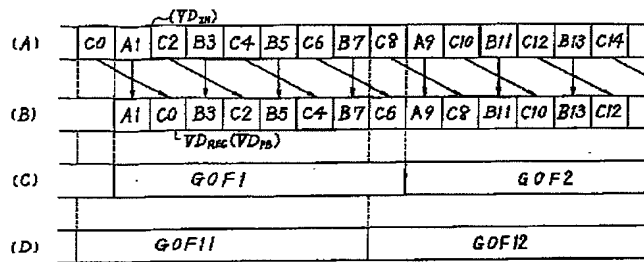


図8 実施例の記録順序

【図7】

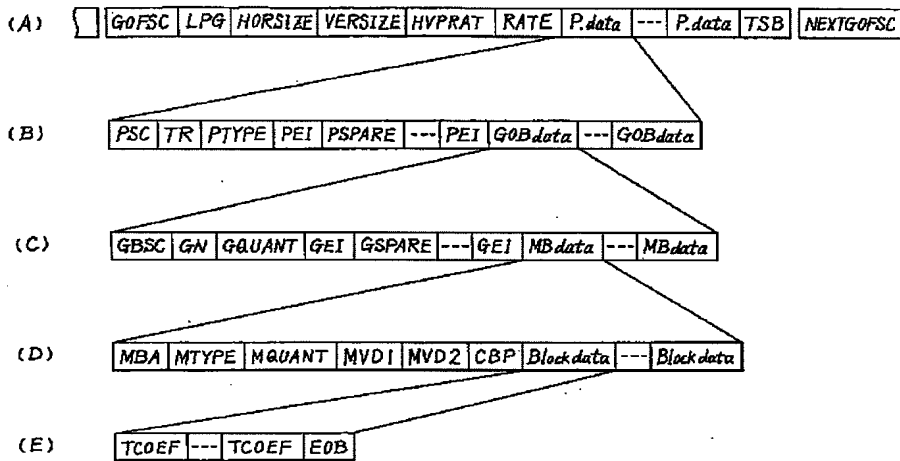


図7 記録再生データのフォーマット

【図12】

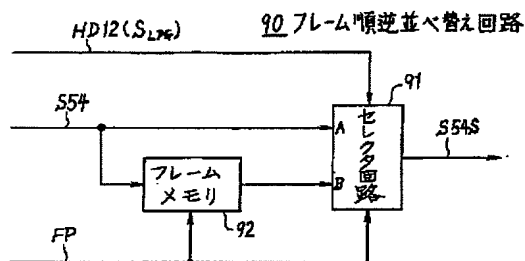


図12 フレーム順逆並べ替え回路

【図13】

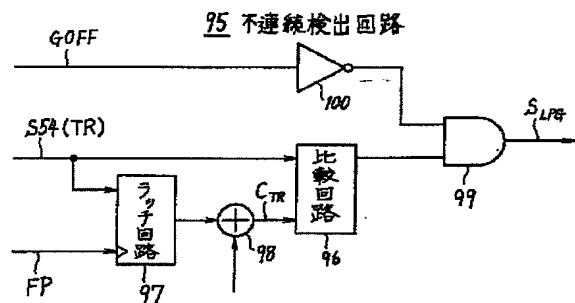


図13 他の実施例

【図 9】

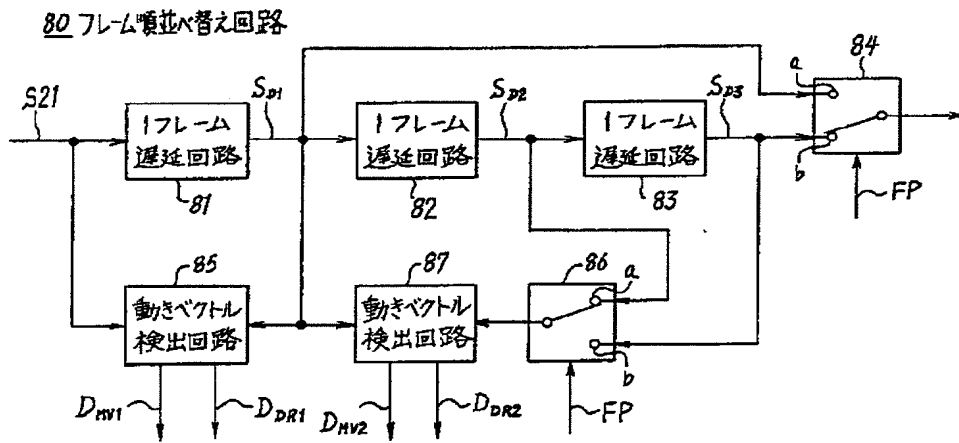


図 9 フレーム順並べ替え回路

【図 14】

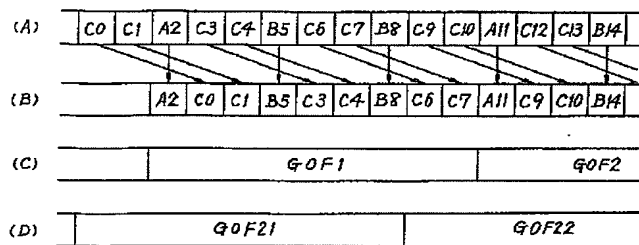


図 14 他の実施例の記録順序

【図 15】

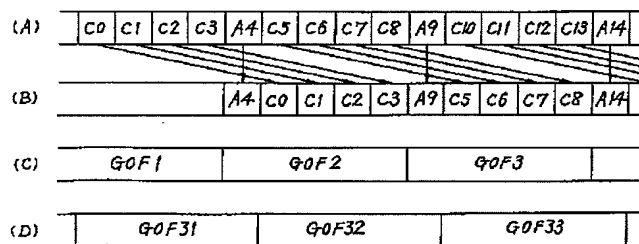


図 15 他の実施例の記録順序

【図 16】

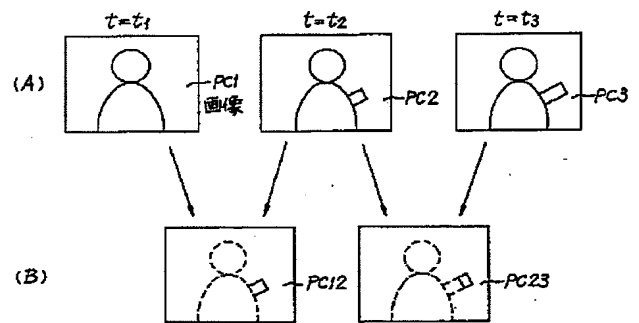


図 16 フレーム内/フレーム間符号化処理

【図 18】

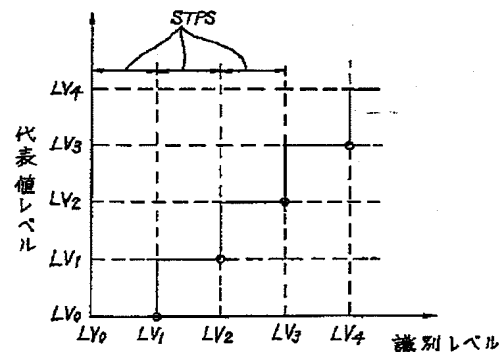


図 18 量子化ステップ

【図10】

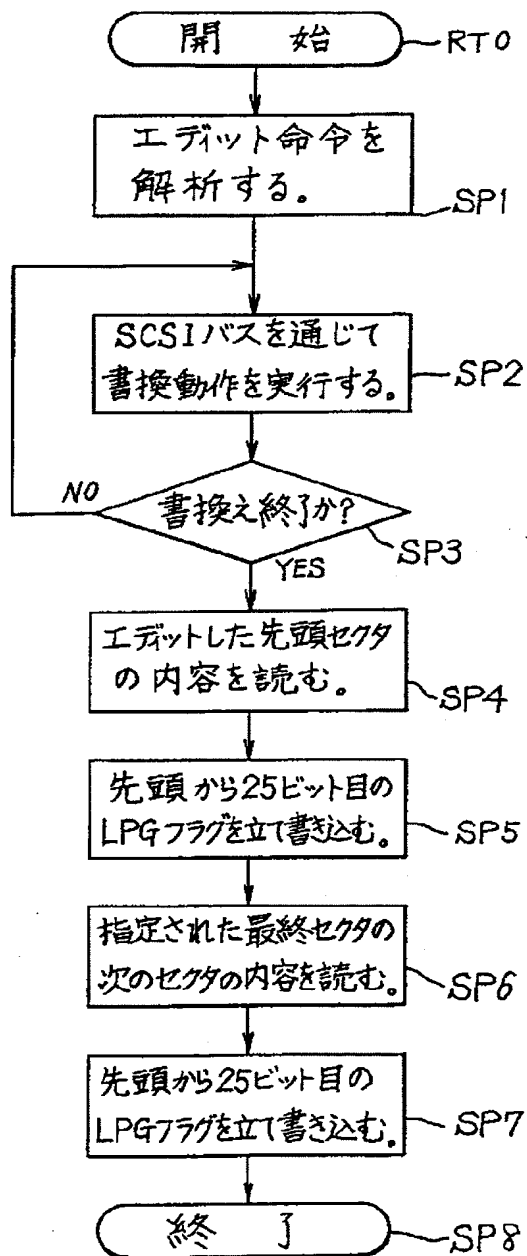


図10 エディット処理手順

【図17】

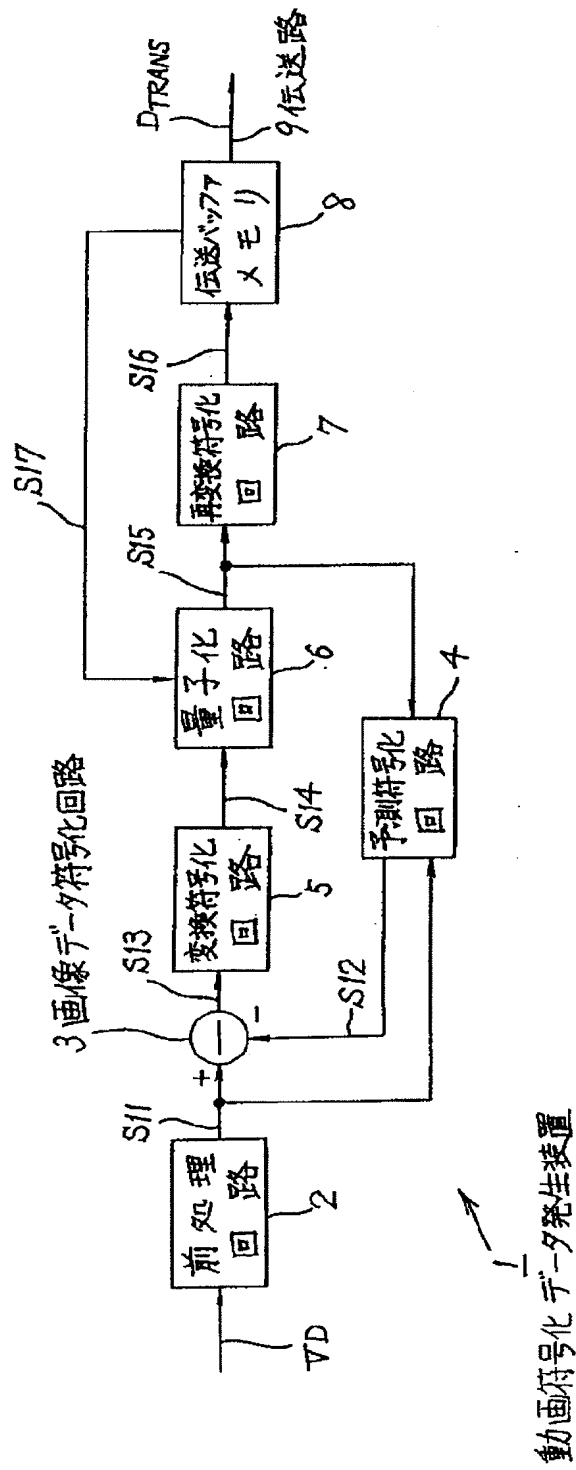


図17 動画符号化データ発生装置の概略構成

【図19】

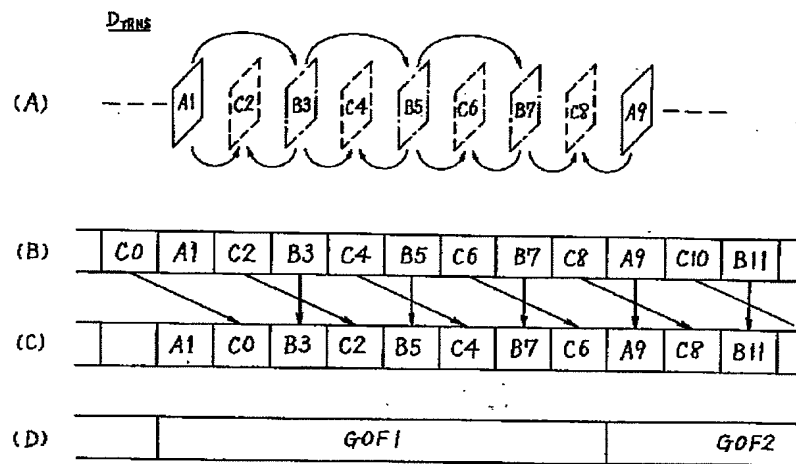


図19 従来の動画符号化データ記録順序